かみのやま 歴史・文化財さんぽ

第５２号（令和７年１２月）

あゆむ「ひさしぶりの“さんぽ”だね。」

ふみお「そうだな。指定（してい）された文化財も残りわずかだからな。」

あゆむ「それで、今日は何かな。」

文じい「ほれ、ここ久保川地区の二つの板碑。さあ、このお宅の裏（うら）にある、これじゃ。」

ミドリ「あら、大きい板碑（いたび）ね？」

ふみお「図録では、高さが２ｍ７３㎝だそうだ。指定された板碑の中では一番高いかも。」

文じい「長石仏（ながいしぼとけ）とも呼んでおり、この辺の地域の名称にもなっておる。」

久保川の

應永六年阿弥陀板碑（おうえい あみだいたび）

文明十二年板碑（ぶんめい いたび）

ミドリ「おもしろいわね。それから、種子（しゅじ）がはっきりわかるわね。確か“キリーク”と言って阿弥陀如来（あみだにょらい）様よね。」

ふみお「そうだね。種子は、“しゅじ”と呼んで、これで仏様を表すんだったよね。」

文じい「そう。上の二本の線は二条線と呼ばれている。“應永”というのは、“おうえい”と呼ぶ年号で、應永六年は 1399 年じゃ。」

ふみお「あとの字は大分見えにくくなってしまったけど、次のように彫られてあるらしい。」

ミドリ「やっぱりこれも、卒塔婆なのね。」

文じい「そう。“板石塔婆”とか“自然石卒塔婆”ということじゃな。“五輪の塔”から変化したものということらしい。」

あゆむ「そのソトウバというのは何のことだったんだっけ？」

ミドリ「亡くなった人を供養したものよね。」

文じい「ふむ。梵字のストゥパ（stupa)がソトウバとかソトバ。今では、供養のために墓の後ろに立てる細長い板、つまり“トバ”と言っているものじゃな。」

ふみお「五輪の塔は、確か、下から地、水、火、風、空と積み重ねた塔だよね。」

文じい「そう。万物をつくり出す五つの元素となる五大。それに種子を刻んでおる。」

ミドリ「トバは、それを表したものなのね。」

あゆむ「ところで、どうしてこの碑が家の裏になんかあるのかな。」

ふみお「となりに、百万遍供養という碑もある。」

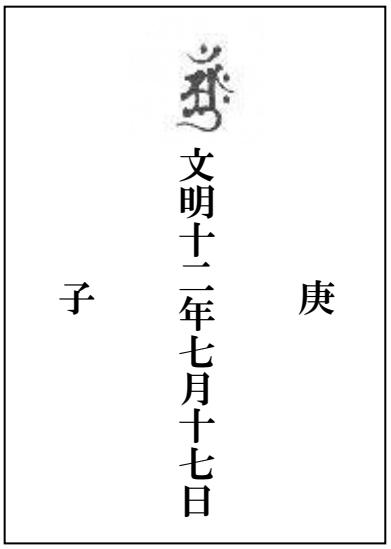
文じい「大久保村女、小笹村女 などと彫られている。昔、この先の大門に行く道路が、実はこちらを通っていた。それが、後に西の方に今の新道ができたというわけだ。」

あゆむ「なるほどね。これで二つなの？」

文じい「いや、もう一つの板碑、ほれ、そこじゃ。」

ミドリ「あら、標柱が建っているわ。久保川の文明十二年板碑だって。」

ふみお「次のように彫られているそうだ。」



ミドリ「種子は、“アーンク”。胎蔵界大日如来様ね。」

文じい「年号は、“文明”。十二年は 1480 年。」

ミドリ「信仰を大事にしてくらしていた昔の様子が、浮かんでくるようね。」

発行：　上山市教育委員会生涯学習課生涯学習係　　電話　023-672-1111